

日本の国語科教育における「意見文・小論文」指導

1 「書くこと」という国語科の領域、「意見文・小論文」という文種

- ① 国語科を規定する3領域（A話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むこと）
 ② 学習指導要領には「文種（意見文・小論文）」という項目はない。……………資料 1

2 検定教科書における「書くこと」の守備範囲と「意見文・小論文」の扱い

- ① 小学校「国語」（H29版CS準拠）
 例「新しい国語」（東京書籍 小5）……………資料 2
- ② 中学校「国語」（H29版CS準拠）
 例「新しい国語」（東京書籍 中2）……………資料 3
- ③ 高等学校「国語」（H21版CS準拠 なお、H30版CS準拠のものは来年度より）
 例「国語総合」（東京書籍 必修科目 高1生の全員が履修）……………資料 4
 例「国語表現」（東京書籍 選択科目 高2高3のごく少数が履修）……………資料 5

3 大学受験「小論文」（樋口裕一氏を例に）

- ① 樋口裕一氏について
 1951年、大分県日田市に生まれ、早稲田大学第一文学部卒業、立教大学大学院仏文科博士後期課程満期退学。フランス文学・アフリカ文学の翻訳を行うかたわら、1980年代より大学受験小論文の指導を始め、多くの小論文参考書によって「樋口式」と呼ばれる指導法を確立し、「小論文の神様」と呼ばれるようになった。2000年ころから一般書も多数書き、2004年刊行の『頭がいい人、悪い人の話し方』（PHP新書）は250万部を超えるベストセラーになり、2005年の全図書の年間ベストセラー1位を記録した。著作は、学習参考書と一般書、共著書を合わせて250冊を超す。東進ハイスクール小論文講師、京都産業大学客員教授、多摩大学経営情報学部教授を経て、現在、多摩大学名誉教授・小論文指導ゼミナール白藍塾塾長・MJ日本語教育学院学院長。
 （出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）
- ② 樋口式小論文の特徴
 例 樋口裕一『ホンモノの文章力 ―自分を売り込む技術』（集英社新書 2000年10月初版）……………資料 6
- ③ 樋口式小論文の意義とその批判
 1) 意義：「小論文」という文種に一定の「型」を与え、だれでも指導を可能にしたこと。
 → 樋口式小論文が登場するまで、小論文を「型」で教える指導はほとんど存在しなかった。
 意義：生徒の学力を問わず、成果が上がりやすい「型」であったこと。
 → 樋口式小論文に救われた受験生は一定数おり、それによって大きな支持を集めた。
- 2) 批判：この「型」に合うテーマと合わないテーマとがあること。
 → 価値を排他的に扱うようなディベート的なテーマには合うが、問題を深く掘り下げたり自分なりの対策を提案したりするテーマには合わない。
 批判：「反論予想」と「両論併記」との区別があいまいになりやすいこと。
 → 予想すべき反論は、あくまで主張との論理的な対立関係にあるものである。
- ④ 「型（テンプレート）」の限界と可能性
 → 「型（不自由）」と「型なし（自由）」のはざままで
 → 「型・形式・言葉」が「認識・思考・判断」を規定する（いわゆる「言語論的転回」）
 ⇒ 分析と考察のすべては児玉の個人的な見解です。